

「信仰・希望・愛に生きる。」 I コリント書 13章 4～13節 岡山師

I コリント13章は、「愛の賛歌」とも呼ばれ、「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみませせん。・・・」と、パウロによる美しい愛の言葉が迫ってきます。しかし、それは愛の賛歌を書かざるをえない状況がコリント教会にあったからです。それは愛の欠如です。信徒同士が御霊の賜物を求めて互いに競い合い、うぬばねやねたみが教会にあったため、パウロは愛を書き送ったのです。

I 愛の特徴と永続性

そこでパウロは「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人のした悪を心に留めず、不正を喜ばずに、真理を喜びます。すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。」(13:4-7)と教えます。ここには、15の愛の特徴があり、さらに「つ」の側面があります。その側面は、第一に「他者をありのまま受け入れる」という寛容さです。新共同訳は「愛は忍耐強い」と訳されています。寛容とは「つねに人々に対する忍耐」ということだと捉えます。復讐をしようと思えば簡単なことでも、あえてそれをしないという姿勢です。第二に「自分から発信する」という側面です。親切とは、相手の必要を満たしたり、誰かに雨や嵐がやって来ても、愛でサポートする心です。第三に「心の抑制により、愛を届ける心」です。この「つ」節の「つ」をしない」とは、∞の否定形であり、抑制する性質です。愛の特徴は、心の抑制、心のブレーキを踏むことだと言えます。コリントの教会はこの抑制がなかったのです。第四は「生活のあらゆる面での姿勢」という側面です。「すべて」という表現が繰り返されています。いかなる困難な中でも、神の愛を信頼する不屈の心を語っています。

作家の三浦綾子さんが、「愛」という言葉を「キリスト」に置き換えればよく分かると言われました。「キリストは寛容であり、キリストは親切です。また人をねたみません。キリストは自慢せず、高慢になりません。キリストは礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人のした悪を心に留めず、不正を喜ばずに真理を喜びます。キリストはすべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。」となり、キリストの似姿に変えられることの必要を知ります。

パウロは、「愛は決して絶えることはありません。」(13:8)と説きます。神の愛は永続します。そして、「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見るようになります。」(13:12)とあり、私たちは主が再び来られる時には、主と顔と顔を合わせ完全な者とされるのです。

II 信仰・希望・愛

「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。」(13:13) ここには、いずれ朽ち果てるものと、永遠に残るものがさらに説かれています。

いつまでも残るものの最初は「信仰」です。ヘブル12:2に「さて、信仰は望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。」と書かれています。「失望は信仰の敵である」と言った人がいました。私たちは神に向き合わず、失望に身を委ねてはならないのです。聖書信仰は、人間の思いが中心ではなく、どこまでも「神中心」なのです。

いつまでも残るものの二つ目は「希望」です。1ペテロ1:3には「私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことよって、私たちを新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。」とあります。「生ける望み」とは、「人を生かす希望」という意味があります。神にある希望は、人にいのちを注ぎ躍動に至らせます。また希望がなければ、天というゴールを見失うのです。

三つ目のいつまでも残るものは「愛」です。イザヤ49:6に「書かれています。「たとえ山が移り、丘が動いても、わたしの真実の愛はあなたから移らず、わたしの平和の契約は動かない。——あなたをあわれむ方、主は言われる。」神の真実の愛が力強く語られています。この愛は決して絶えることはないという約束です。

III 最もすぐれているもの

それだけでなく、愛はいつまでも残る3つのものの中で「一番すぐれているもの」です。パウロは、他の賜物や知識と呼ばれているものと比べて、愛はいつまでも残るものだと強調しました。賜物は一時的に与えられた神の恵みです。永続するものは、信仰と希望と愛なのです。そしてこれら三つの中でさらに本質なのは、愛なのです。また、「信仰」「希望」「愛」は、愛を土台とし、互いに影響し合っています。愛のない信仰は冷たいです。愛がない希望は独りよがりと言えます。希望のない信仰は生きた信仰とは言えません。愛は信仰を燃やす火となり、愛は希望を現実に変える光なのです。

移り変わっていくこの世にあって、私たちはキリストの十字架を通して変わらない神の愛を教えてくださいました。その愛に込めて信仰・希望・愛に生き、神の愛と、人を愛することを表してまいりましょう。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

【新改訳 2017】

I コリント 13:4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

13:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、

13:6 不正を喜ばずに、真理を喜びます。

13:7 すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。

13:8 愛は決して絶えることはありません。預言ならすたれます。異言ならやみます。知識ならすたれます。

13:9 私たちが知るのとは一部分、預言するのとも一部分であり、

13:10 完全なものが現れたら、部分的なものはすたれるのです。

13:11 私は、幼子であったときには、幼子として話し、幼子として思い、幼子として考えましたが、大人になったとき、幼子のことはやめました。

13:12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔を合わせて見ることになり。今、私は一部分しか知りませんが、そのときには、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。

13:13 こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

【NKJV】

1Co 13:4 Love suffers long and is kind; love does not envy; love does not parade itself, is not puffed up;

13:5 does not behave rudely, does not seek its own, is not provoked, thinks no evil;

13:6 does not rejoice in iniquity, but rejoices in the truth;

13:7 bears all things, believes all things, hopes all things, endures all things.

13:8 Love never fails. But whether there are prophecies, they will fail; whether there are tongues, they will cease; whether there is knowledge, it will vanish away.

13:9 For we know in part and we prophesy in part.

13:10 But when that which is perfect has come, then that which is in part will be done away.

13:11 When I was a child, I spoke as a child, I understood as a child, I thought as a child; but when I became a man, I put away childish things.

13:12 For now we see in a mirror, dimly, but then face to face. Now I know in part, but then I shall know just as I also am known.

13:13 And now abide faith, hope, love, these three; but the greatest of these is love.